

誰もが安全に 安心して暮らせる 幸せに満ちたまち そんな未来の実現を

大竹市長 入山 欣郎

明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年、市政にお寄せいただきましたご支援に対し厚くお礼を申し上げますとともに、皆様のご多幸を心からお祈りいたします。

いまだ続く新型コロナウイルス感染症との闘いですが、新たな変異株に対する懸念など、予断を許さない状況が続いています。日本では高いワクチン接種率に加え、感染の大小に関わらずマスク着用や手指消毒など感染対策を徹底して行っています。これまで感染者数が他国に比べ低い水準であったことは日本人の実直さの賜物であろうと、敬服するとともに、市内の医療等関係者の皆様、市民の皆様のご尽力、ご協力に、心から感謝の意を表します。コロナ禍でさまざまな対処が必要となる中、

テレワークやウェブ会議の定着など、デジタル化の進展により、私達の生活の在り様は大きく変わりました。時代の節目を感じるとともに、変化に応じた施策にしっかりと取り組んで参りたいと気持ちを新たにしています。

大竹市では昨年「大竹市まちづくり基本構想」を策定しました。策定にあたってはアンケートやワークショップを通じて広く市民の皆様の見解をいただきましたが、まちへの誇りや熱意、愛情を強く感じる事ができました。私は、まちが人をつくり、人がまちをつくっていくものといつも申し上げています。大竹を愛し、関わりを持ってくださる方が数多くいらっしゃることは、まちの宝であり、何よりもありがたいことだと思っています。

先人たちが、苦しい時代でも将来を見据え、その時々「今」を見つめ、すばらしい大竹の

まちをつくっていただきました。現在を生きる私たちには、その意思を継ぎ、次の世代につながる役割がございます。

『誰もが安全に、生涯安心して暮らせる幸せに満ちたまち』そんな未来を、まちへの誇りと愛着にあふれた市民の皆様とともに実現できますよう、一所懸命に取り組んで参ります。引き続き、市政に対しましてお力添えをよろしくお願いいたします。

本年が皆様にとりまして平穏で素晴らしい年でありますよう、心からお祈り申し上げます。新年のごあいさついたします。

明けましておめでとうございます。

市民の皆様におかれましては、令和4年の新年を迎え健やかに過ごしのことと心からお慶び申し上げます。

昨年も2年近く続くコロナ禍で、日常生活が翻弄された年であったと思いますが、新型コロナウイルス感染症との闘いは未だ予断を許さない状況が続いています。

昨年12月の新たな変異ウイルス（オミクロン株）の出現は、国内第6波の感染拡大が懸念され、折角沈静化が見え始めた矢先の報道に世界中が落胆をいたしました。

こうした中で、感染防止の切り札として第3回目のワクチン接種（ブースター接種）が実施されます。できるだけ多くの方が接種され自己防衛されることが集団免疫の獲得に繋がるも

のと思っています。

もちろん、それだけでは不十分で感染拡大防止の基本である「マスク・手洗い・3密を避ける」を実践して自分自身と周りの人を守る事が最優先であることは言うまでもありません。

さて、市議会といましては、昨年予定しておりました議会報告会と意見交換会の開催が中止になったことについては、誠に申し訳なく思っております。

コロナ禍での地域活動や各地区の自治会運営を担っておられる役員の皆様には、地域課題の整理に当たり大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

今年には感染状況を勘案しながら是非とも実施して行きたいと思っております。また、市議会では前回（令和元年）の市議会

議員選挙において無投票になったことを重く受け止め、現在議会改革特別委員会で議員定数のあり方について議論を進めているところで

これは大竹市議会だけの問題ではなく多くの地方議会でも取り組まれている課題で、「議員の役割や活動に魅力を感じないのか?」「選挙のリスクや負担が大きいのか?」などさまざまな要因が考えられます。

議員の担い手不足の解消に向け市民の皆様にも「議会はこうあるべき」などのご意見ご要望をお寄せいただければ参考にして参りたいと存じます。

結びに、新型コロナウイルス感染症の終息と皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。

議会改革に向けて

議員定数のあり方の

議論を進めています

大竹市議会議長 賀屋 幸治

